

## 第5回 シグマ研究・専門委員会議事録

日時 昭和45年2月2日(月) 11時00分～18時30分  
場所 日本原子力研究所本部 第1会議室  
出席者

百田光雄(原研), 飯島俊吾(NAIG), 五十嵐信一(原研)  
桂木 学(原研), 西村和明(原研), 森田敏夫(MAPI)  
大田正男(京大), 大野善久(原研), 片岡 巖(船研)  
片瀬 彬(九大), 河合光路(東工大), 坂田 肇(原研)  
坂本正誠(原研), 鈴木 猛(原研), 竹腰秀邦(原研)  
立花 昭(原電), 塚田甲子男(原研), 中村 久(富士)  
宮坂駿一(原研), 山本正昭(日立)

### 配布資料

1. シグマ研究委員会幹事会メモ
2. シグマ研究委員会核データ情報評価専門部会  
第2回合同会合議事録
3. シグマ委員会核データ情報/評価専門部会  
熱中性子散乱W.G. 第4回会合議事録
4. 45年実行予算案(45.1.20現在)
5. NEUDADA データのグラフ・プロットについて
6. 核データ情報・評価専門部会データ検索システムW.G. 第6  
回会合議事録
7. Mechanical evaluation の説明資料

### 議 題

1. 44年度の予算執行状況の報告
2. 前回議事録の確認
3. 第13回EANDC会議の報告
4. 45年度実行予算
5. NEUDADA の plotting

6. Mechanical evaluation
7. Computer 調査
8. 熱中性子散乱の報告会
9. その他

議 事

1. 44年度の予算執行状況の報告(西村)

計算依頼費はすべて発注, 契約済みである。

運営費のうち, 旅費, 会議費, 印刷費の残額は15.8万円, 10.3万円, 0.8万円(1月末現在)で, 年度内に消化される予定である。

2. 前回議事録の確認

訂 正

P. 3 6行 yicle → yield

P. 3 26行

P. 4 1行 } Reacter → Reactor

4行

5行

P. 3 27行 UKNDC → UKNDL

P. 3 28行 炉定数を作る → 炉定数を作った。

progress report の吟味は次回にまわす。

3. 第13回 EANDC会議の報告。(百田委員長)

JNDCニュース№13のP. 25~P. 29に詳細な報告がなされている。この記事を中心にしてさらに詳しい説明があつた。

4. 45年度実行予算について

- a. 鈴木委員が大蔵省内示について説明をした。

- 1,000万円がシグマ委員会の計算費として付いた。

- 核データ・センター(研究室)の人員としては3人を要求していたが, 原研全体の純増が12人であり, 何人来るかは不明。

- センターとしての組織が認められるかどうかは認可予算作成の段階できまる。

- b. 各W.G.から前回以降の報告と来年度計画についての説明がなされた。

(1) 炉定数専門部会 (桂木)

- ・ 炉定数の評価 W.G.
  - ・ 約10核種に対して“ベンチマーク”の計算を始めた。
  - ・ EXPANDER IVに摂動計算を入れ、FACOMに交換された。
  - ・ 78核種に対して炉定数をつくつた。
  - ・ 来年度はMechanical evaluationの準備、サーベイをする。
- ・ T.F.P. 炉定数作成W.G.  
ENDF/B, UK, JNDC SET 161の比較がなされた。
- ・ F.F.P. 炉定数作成W.G.  
B<sup>10</sup>, B<sup>11</sup>, B, Cuの炉定数を追加した。

(2) 情報・評価専門部会 (五十嵐)

配布資料2を中心に説明がなされた。熱中性子W.G.については配布資料3にもとづいて説明があつた。(坂本委員)。熱中性子散乱W.G.の軽水、重水に関する productionは今年度で終了するという了解であると委員長から発言があつたが、W.G.内では、了解していない旨の発言が坂本委員よりあつた。

- c. データ・シートによる文献の収集に関する情報評価専門部会内の意向が紹介された。
- d. 遮蔽専門部会の45年度予算要求はシグマ委員会とは全く別に提出したが、既に局の段階で落とされている。来年度シールド関係をどう考えるかが討議された。

遮蔽関係の委員からはシグマ委員会の中に、シールド関係の専門部会を作つて欲しい旨の要望が出された。これに関しては遮蔽定数をシグマ委員会として取り上げるかどうか今後検討することになつた。(同時に遮蔽実験専門委としても考え方をまとめてもらうこととした。)

- e. 配布資料4の予算は1,500万円で組んであるので1,000万円に直す必要がある。運営費220万円は除き残り780万円の配分は幹事会に任かせることになつた。

5. NEUDADA の Plotting (五十嵐)

配布資料5に関する説明がなされた。プログラム作成の作業は現在進行中であ

る。Plotting に関連して CCDN から入手したデータの扱い方に関する議論があつたが、結論は出なかつた。Plotting の要求などに対する考え方案を研究室で作し、次回の本委員会に提出することになつた。

#### 6. Mechanical evaluation (桂木)

配布資料 7 を使つて、BNL で作られた SCORE (SCISRS CONVERSION ROUTINE) についての説明がなされた。ライトペンによる online の evaluation がこの目的のためには是非とも必要である。

#### 7. Computer の調査 (五十嵐)

(配布資料 6 を参照)

データ検索システム W. G. で核データセンターで持つべき Computer System を調査することについて、その一環として国外のデータセンターに、W. G. としてアンケートを出してよいかどうかという質問がなされた。

まず、自分達の案を作り、それに対する考えを聞くべきである。アンケートは出すべきでないという意見が大半を占めた。

#### 8. 熱中性子散乱 W. G. の報告会 (飯島)

日 時..... 3 月中旬の 1 日

場 所..... 東京か東海大学 (学会場所)

対 象..... シグマ委員の全員

#### 9. その他

- ヘルシンキで行なわれる IAEA の核データ会議に 7 件の論文が出された。(百田委員長)
- シグマ委員会、専門部会 W. G. 研究室の関係について次回に話し合いたい。(西村)

#### 10. 次 回

3 月中旬に行なうが、詳細な日時、場所は幹事会に任かせる。尚、当会合で次回の議題として出されたものは次の 6 つである。

1. Progress report の紹介と検討
2. データシートによる文献収集に関する議論の結論
3. 実行予算の提示 (幹事会より)
4. Plotting に関する研究室の案の検討
5. ライトペンの話
6. シグマ委員会、W. G., 研究室の関係についての議論 以上